(十九日夕刊)
磐城新聞

休刊　大祭日 第一 第三日曜
定價　一部二錢　一ケ月六十錢　郵税十五錢
廣告料　壹行六十錢指定廿錢増
發行兼編輯印刷人　菰沼龍輔
福島縣平町田町十六番地
發行所　磐城新聞社　電話五六四番

三濱のしぶき　下

茨世詩美津

『僕の妹――』凉太郎は志賀に紹介した

千恵子は恥ずかしさうに頭を下げた

志賀は小聲で凉太郎に向ふて

『ワイフだらう？何時もらうたのだ――』

と笑ふて問ふた

『妹だ安心し給へ』

港には秋刀魚船が二三艘停船してゐた、船方連は港のほとりで網修繕してゐる

波は穏かでチットも波が立たない平和な漁村の感じがする町であつた

志賀に別れ自動車にて小名濱へ行く晝食をしない二人はかなり空腹を感じ東洋館と言ふ町一流の旅館でくつろぐ

三階の見晴らしいの良い座敷に案内されやッと落着いた氣分になる

銚子一本を女中に命じた

『貴方一本しか呑んではいけないよ』と千恵子が注意する酒も一つ二つと杯の數を重ねるに從つて凉太郎の氣分は實に愉快になつてしまつた

『今一本よからうねエ――千恵子さんいゝでせうねエ』

『じや　いま一本丈ね――』

醉ふてくる凉太郎の心は駄々子の様に愉快がらせた

理想の戀とねエ、神聖の愛の力で出來た中

――たが　たんにネクタイ上や、金錢の力で出來る中じやない――

外は薄暗くなり電燈はつき座敷は親みりして來た

『お前のみ給へ――』

『ハイ――私――わたし――』

『私が何だ――のめないと言ふのか――この酒、この愉快な氣分になる酒を』

無理に凉太郎に杯をすゝめられ、止むなく千恵子は受け目のふちをはんのり色どる

『僕は今夜こゝへ宿る！』

『ネエ貴方そんな駄々言わずに歸りませうね』

『いやだ僕は斷然宿ちまふ――』

『じや私一人で歸りますわ――』

凉太郎と別れて行く氣はない千恵子だつて宿つて心行くまゝに親みりと樂しく一夜を過したいと思ふけれど家の方が心配なのでなるべくなれば歸り度いと思ふ心持

『僕を置いて一人でに前歸ると言ふのか――人情は紙より薄きもの――』

『ネエ貴方私も宿りますわ家の方どうしませうね』

『電報を打つから――家からそんなに信用のない君でもあるまへ――』

女中が持つて來た頼信紙(二)に

アスカヘルテエコ

と書き女中に渡す

浴場は氣持の良い新しい浴槽凉太郎千恵子は入浴後小名濱の夜町を見物に出かけた

海邊近き町なれば夏の海水浴客退いた後の今日此の頃はいたつてひつそりとして、按摩の笛の音がいたく淋しげに聞ゆ

宿に歸り休みしは九時一寸過ぎた頃だつた

甘き夢路を辿つた

小名濱の一夜は

どんなに

二人に取つて

愉快に　樂しく　印象深く

過した事であらう

明くれば朝八時新家庭に住む心地で朝飯を濟まし湯本を經て平の住家へ

――一九三〇年年末――

童謠

けむり　神奈川　市川健次

稻むらの
上にぽつかり　立つ煙は
あれは父んのたばこのけむり
ぽかりゆらゆら
立ちのぼる

桔梗いろの
山に朝夕　立つけむは
あれは深山の
炭やくけむり
ほんに　ほそぼそ
立ちのぼる。

柴刈　島田忠夫

枯柴山の
暖いいろ
いくつも〳〵
こえて
雉の子を
追ひながら
谷にも
おりた
柴木積んだ
おらが馬
草木瓜のはな
喰べてら。

拈華微笑

◇不景氣風何處を吹く。賑かなクリスマスデコレーション

◇若千代とは永久に粘れなかつた

酸素熔接の詐欺　漢青柳

◇卅錢分の喧嘩としては些か過ぎたらしい肴屋菓子屋の立廻り

◇平町會レビユー

廿三日本年の暮　おりる

◇師走も愈々あと十日、皆んなの目色がそろ〳〵變つて來る

○――○

―(今月今日)―

△河野廣中兇徒嘯聚事件豫審決定(明治三八)△大岡越前守忠相歿す、將軍吉宗に擢てられ名奉行の名後世に傳はる(寶暦二)△日本後記を上る、藤原諸嗣の選する處、日本記(舍人親王選)續日本記(藤原繼縄)などと共に本朝六國史の一、その次の續日本後記は藤原良房の選する處である(承和八)△希臘皇帝蒙塵(大正一一)

講談　赤鞘安兵衛

東京　桃川燕二演　村田月光畵

(一三二)

高田の馬場に於て襷を貸して吳れた老女と娘、是れはとばかり立ち上ると土間へ飛び降りた……『これは〳〵好うこそお尋ね下し置かれました、まことに面目次第もございませぬ』と頭を下げた、今まで誰が來ても横柄な挨拶をしてゐたのが……『ピヨコ〳〵頭を下げるから萬吉が……『是れは不思議、どうしても女の世の中だ』と呆れてゐる：『其節お借用仕りました際の儀は、數人を切つて血に染まり、切角のお品を臺なしに汚しました故、洗ひ清めて返却仕る積り、紺屋職人に張り替へに持たせ遣はし置きました、今暫く御猶豫下されば出來仕る、出來次第持參仕ります暫くのところを……』萬吉愈々呆れた、正直そうに見えても嘘を吐く奴だ、血に染つた腰帶は屑屋に拂つて疾うに酒にして今頃は三河島の菜のこやしになつてゐる……『イヤ其の御挨拶には及びませぬ、手前は腰帶の御催促に參つた譯ではなく折入つて願ひの筋があつて罷出ました』……『ハテ手前に御用の筋……兎も角もお通り下さい、甚だむさくるしいところで……』萬吉之れを聞いて……『へんむさくるしいがよく出來た、店賃の一と月も拂つたことがない擗に』と思つてゐる……『御免下さいまし娘も之れへ』……『ハイ』オッ〳〵と母親の跡から上へ上つたが穢いの穢くないのぢやアない、疊はぼろ〳〵でほこりだらけ足袋を穿いてゐたから好いが、素足なら足が疊へくつ着いて足取りが惡くならうと云ふ案排、併し一大事の用で來たのだ穢いの何んのと云つては居られませぬ、其處へピタと座ると娘も後へ座つた、はきだめへ鶴が降りたとは此事でございませう、御親造は共處へ兩手をついて……『前にも申し上げましたが、手前事に藩州赤穂の城主五萬三千石　野内匠頭家來江戸留守居役堀部彌兵衛の妻まさと申す不束者、以後お見知り置きを願ひます』……『是れは〳〵申しおくれました拙者越後新發田溝口伯耆守浪人中山安兵衛武庸と申す武骨者にござります、以後御別懇に願ひたう存じます！』……『扨先日高田の馬場に於てのお手柄承はりますれば前にお果てなされたは其處許様の爺いに當るお方とか御愁腸のほどお察し申上げます、併し早速お駈付けになり、美事に仇を報じられましたのは、草葉の蔭でも御萬悦の事と存じます』……『御丁寧なる御弔詞恐縮至極に存じます』萬吉双方を見比べて……『今日は安兵衛さん餘り力まないな、女に出會つて少し固くなつた、グデン〳〵で身體が極らずなまこの様な奴が鬼に鹽をブッ掛けられて縮み上つた形ちだ、此の案排ではブッ〳〵に切つて三杯酢に出來そうだ』……さマジ〳〵此の時御親造が――『押付けがましく罷出ましたのは高田の馬場にて仰せられた御一言を便りと致したのでございますが、其節のお言葉ヨモヤ忘れはなさいますまいな』……『ハテ其節の言葉とは――』『是れはしたりお忘れでございますか、武士の一言は金鐵の如しと承はり及びました、夫程大切の言葉お忘れとは思ひも寄りませぬが』……『ハア』――『決して恩に掛けて申す譯ではなく娘の帶と平打を差上げました砌り此の御恩は死すとも忘却仕らず、運よく仇を討ちおふせた其上は、必ず御恩報じ仕ると仰せのあつた事でございます』……『ハア何を仰せあるかと存じたるに其の義でござるか其の一言は今も向膽に銘じ少しも忘却は仕りませぬ』……『扱は今日までも其事を思召してお出でなさいますか、夫れ承はつて安堵仕りました、如何にも貴方様は武士の鏡でございます……』

ラヂオ

……二十日(土曜)……

東京 JOAK

△午前七時ラヂオ體操
△九時氣象通報
△九時十分日用品値段、料理献立(鴨のロース煮と蕪のあちやら)中曾根梅子
△十時三十分家庭講座(寒い季節の育兒)醫學博士　内藤兵
△正午時報
△午後〇時五分新三絃曲―(白秋小唄)一、和蘭船　二、紺屋のお六　三、雀たどり　四、そなた待つ間
△〇時四十分ニユース
△二時家庭大學講座、植物と人生第十三講工業用植物(其一)理學博士川村清一
△三時四十分氣象通報
△四時ニユース
△五時四十五分職業紹介事項
△六時(子供の時間)[illegible]と獨唱　一、行進曲『クワンシユウ』二、獨唱　イ、箱根の山　ロ、寄宿舍の古釣瓶　三、天使の夢　四、獨唱(荒城の月)　五、圓舞曲『クリスマスの薔薇』
△六時三十分言葉の講座漢字の生ひ立ち第六講、後藤朝太郎
△七時ニユース
△七時三十分講演(熊本より中繼)琉球と日本の文化、新屋敷幸繁　新日本音樂　管絃合奏、東京組曲　一、千代田城(丸の內)　二、河岸の灯(大河端)　三、十字街(日本橋)　四、噴水塔(淺草)成和音樂最管絃曲　長唄(時雨西行)ラヂオコメデー　北麻雀・オン・パレード　村壺夫作　第一景會社員丸太三助の家　第二景或る麻雀クラブ　第三景再び丸太三助の家　第四景社長の邸の玄關　第五景三たび丸太三助の家
△九時四十分時報、ニユース、氣象通報

仙臺 JOHK

△午前九時十分料理献立(お正月の用意)一の重、菊花蕪、針魚　朴澤松操學校發表
△午後〇時四十分ニユース
△六時(子供の時間)お話(世界一の大ポケット)小川格
△七時ニユース
△七時二十五分體育講座―(初めてスキーを試みやうとする方々へ)佐藤恒秋
△八時合唱と獨唱とピアノ獨奏、宮城女學校生徒

洗つて砂ぬき
黑い胡麻　二合五錢
白い胡麻　二合五錢
むき胡麻　一合十五錢
すり胡麻　一瓶廿五錢
胡麻油　一升八十錢
胡麻ミルク　三十錢　五十錢
平町土橋　万　電話四八九

賃餅は平製菓會社へ
◈例年の通りお正月の賃餅御供を取扱へ致します
◈本年は不況の折柄特に一升金五錢にて御注文御引受け量目は正確市内無料配達致します
◎何卒多少に不拘御用命は
―電話三六〇番へ御注文下さい―
福島縣平町字小太郎町貳拾壹番地
平製菓株式會社　電話三六〇　電略タカ

江戸前……
煮込おでん開始　御一人前　金貳拾五錢
洋食三益ランチ　肉物三品御はん付金五拾錢
チキンカツ　金貳拾五錢
カツ丼　親子丼　丼附　金參拾錢
五百人分丈
其他出前速達
田町　三益　電話三一二

修繕料半額値下斷行
親切叮嚀迅速
時計　貴金屬　眼鏡
秋山時計店　有聲座前

不思議な滋強靈液
養命酒
其の白熱的賣行は何を物語るか？
左り病む々に勸む
一、肺病、ロクマク、神經衰弱、胃病、婦人病、營養不良、に對する特異の靈効を有す。
直ちに御試用を乞ふ。
縣下一手販賣店　平町五丁目角　山野邊藥局
定價　約廿日分　三、〇〇　約四十日分　四、〇〇　試用分　一、二〇

內外材木
ストツクノ山
大暴落大安賣
多少不拘御用命を願外
木材並ニ製材業建築請負
平町　色川木材株式會社　電話三四一

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅物
久　釜屋商店
磐城國平町五丁目　電話九番　九九番　振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は(久)の生命なり

◈內臓外科　◈外科一般　◈花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡
安齊外科醫院　電話四三六番

度量衡計量器
吸入用酸素
酸素吸入器
關內藥局　電話四[illegible]番

內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
皮膚外科、梅毒、淋疾病　市原三男
平町田町本通
市原醫院　(入院隨時)　電話一一四番

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
生葡萄酒
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平　おはなし　西村屋藥店　二　三番

平つ子を煙に捲いた 大詐欺漢青柳捕はる
昨日千葉縣下北條署の手に
平署から身柄引取りに急行

平町字田中下宿屋青山ちよ方止宿神奈川縣三浦郡浦賀町生れ前科一犯青柳由五郎(三六)は昨年十月中より平町に入込み神奈川縣鎌倉郡腰越津町酸素熔接事業家たりと稱し江名町吉田正雄氏名義を利用して五千圓の約束手形を僞造した外高根澤、伊藤兩氏其他から合計二千圓を巧に借倒し去る二月十一日情婦なる平町新田町橘家抱ひ藝妓若千代事山川まつ(三三)を伴れ出して逃走平署で手配中のところ昨十八日千葉縣北條町で北條署員が格鬪の上捕へたが同人は森本友藏と僞稱し所持せるかばんには一萬餘圓の僞造約束手形を所持してをり東京市本所區松倉町二ノ一八小池酸素本店から現品を詐取した外東京を中心に數萬圓の詐欺を働いてゐる見込みである、因に之旨北條警察署より通知を受けた平署では今十九日午前二時二十二分の急行にて身柄引き取りに向つた

幼き人に配らるる プレゼントの山
近づくXマスに
忙しい平町の各教會

平町日本基督教會、バプテスト教會、救世軍のクリスマス祭は二十五日午後六時から各教會堂で夫々行はれる筈で目下準備を急いでゐるが殊に日基教會の如きは五色の造花に電氣照明を裝置する等デコレーションに一段の趣好を凝らすなど大張り込みである各教會とも目もあやなる多數のプレゼントを準備し幼ない神の使徒を喜ばせる事になつてゐるのでこゝのみは例年通りの賑かさを豫想されてゐる日基のプログラムは左の如し

一、讃美歌 二、聖書朗讀 三、新禱 四、讃美歌 五、メリークリスマス 六、鐘の音 七、お話し、金成桂一 八、曉の星 幼稚科女兒 九、暗誦 馬目久二雄外三名 十、お星樣神樣 幼稚科 十一、三、對話 星組女兒 十二、三拍子話 植田直彦 十三、可愛い赤樣 幼稚女兒 十四、ほ寒こ寒 幼稚科 十五、お話 島本啓三 十五、天使の小守歌 星組女兒 十七、肩たゝき 幼稚科 十八、英語唱歌 星組男兒 十九、花、鳥、小供 ヱ、ス樣 對話 愛の組男兒 二〇、お星樣 愛の組一同 二一、感話 諸橋富彌 二二、朗讀 神の組一同 二三、お人形屋 柴田專雄外四名 二四、エジプト繪の逃避 信の組一同 二五、メリークリスマス遊戯 星の組女兒 二六、感話 神山勝伯 二七、合唱 神の組一同 二八、對話…(僕達の教室)信の組 二九、お話 志賀直 三〇、サンタークロースの郵便屋 橋本外六名 三一、家庭のクリスマス 大島テル外四名 三二、厩の前(對話)神組一同 其他 等々

縣外視察員廢止
町村長支會の節約
昨評議員會で決議

縣下町村長會石城支會評議員會は十八日午前十時より平町役場會議室において開催午後二時終了したが協議事項の主なるものは來年度の實施事業でこれは本年度の事業を踏襲すること但し年來實施し來つた郡內町村長から二名づゝ縣外視察員を出すことを一時中止することに決し次で國民負擔の輕減に關して貴衆兩院に請願することを決定した

平町會招集
之が本年の最終

平町會は明二十日午後一時から役場會議室で開催
一、滿期任了區長改選に關する件 二、湖摩澤北目分離の件 三、六年度歳入出追加豫算に關する件 四、夏井川改修工事寄附に關する件
を附議するがこれが今年度最後の町會であると

新山の尊屬傷害致死 無罪を言渡さる
理由は證據不充分
けふ平支部で

双葉郡新山町半谷寛(四二)に係る尊屬傷害致死事件の判決言渡しは今十九日午前十時から地方裁判所平支部で中島裁判長係り山本、關口判事陪席武田檢事關與千葉眞木辯護士立會の上求刑六年に對し證據不充分の爲無罪の判決言渡しあつた

丸友ビル 祝福の宴
昨二日目盛況

平町四丁目マルトモ書店新舘落成披露招待第二日目は昨十八日午後三時から木の香新らしい同舘三階ホールに於いて開催したが參會者は各方面の智識階級を網羅したる數十名、第一ホール(講演會場)を休憩室に充て其間奇術手品漫談等の餘興あり四時第二ホールに於て開宴、劈頭柴田氏の挨拶についで新田目春松氏來賓を代表して謝辭を述べ宴に移つたがこの時吉田禮次郎氏起つて親戚を代表し女婿柴田氏が新舘建設に至る迄の經緯と今後の聲援同情を乞ふ旨の挨拶あり和やかなるシャンデリアの下に愈々デザートコースに入るや

平商校長吉田利吉、日本基督教會主中村月城、永山勇吉、藤田女學校長、三森虎雄、井上貞次郎、箱崎壽一、磐中教諭近藤

火防デー 實施計劃決議
昨日の組頭會

平署管內四町十七ヶ村の消防組頭會議は既報の如く昨十八日正午から開催されたが來一月六日全國一齊の火防デー當日に於ける實施計劃として左記事項を決議した
一、火災豫防(十三項)二、消防訓練(四項) 三、火防講演 四、火防宣傳(四項) 五、火防宣傳活動寫眞

五秒間消燈
磐炭の火防注意

磐城炭礦では明二十日から三月二十日迄三ケ月間毎夜火防注意の意味で五秒間消燈して注意を促す外夜警組を組織してこれが火防の徹底を期すると

大枚三十錢の借金で 散々打ち据えらる
肴屋と菓子屋の喧嘩
被害者が平署へ告訴

小名濱町古港五魚行商阿部幸太郎(二〇)は內郷村綴河原田四〇菓子行商清水倉之助(五二)に魚代三十錢の貸があつたので十月二十七日午後四時頃その催促をした處無いから後にしてくれと云はれたので憤慨し清水の左腰部を蹴飛ばし尙ほ自轉車で數回足を突いた上丸太で頭部を毆打し同人の鋸を以つて右手に深さ六七分の傷を負はせた外有金五錢と鋸一枚を持ち去つたがこの爲清水は二十日の休養を要し一日五十錢と見ても十圓の損害であると阿部を相手取り强盗脅迫傷害家宅侵の廉により十九日平署へ訴へ出た

六千斤減産
片倉製糸操短

平町片倉磐城製糸會社では本年七月の蠶糸中央會の決議により明年三月は一ヶ月休業する事に協定してあるので同會社では例の正月に休業し尙月に二回の公休日を通算して四十四日間休業する事になつたが之れが爲め同工場では約六千斤の製産減を見る譯である

湯本町の 水道陳情
補助十六万圓
實現に奔走

湯本町では既報の如く過般工事費十六萬圓で上水道施設を計劃目下起債認可並に國庫補助の申請中だが今回同町將來の人口增加を豫想し更に規模を擴大し工事費三十二萬圓で施行することに規模を變更內十六萬圓を國庫補助に仰ぎたいとこれが實現配慮方につき十八日

仲里町助役其他は十八日出縣陳情した

投檜
寄書歡迎

亂暴なソウイ

◇自分は最近の下り終列車で平驛に下車し聊か酒の機嫌も手傳つた結果南町邊を漫歩しました、呼び止めらるゝば振り返つて見る位の輕い氣分ではゐましたが我れとのれんを掻き分けて素見す程度の勇氣には欠けてゐました

◇ごぶつぶちの或る家(特に名を秘す)の前へ來ると飛鳥の如く出て來たソウヘイ(語源は御判斷に任せます僕等は彼等を呼ぶにこう云ふ隱語を遣つて居ります)の爲にムンヅと許り袖を摑まれハッと思つた時には既に後ろから押されてその廻し扉の中へ入つてゐたのでした

◇月賦も濟まぬトンビの袖の千切れるを覺悟に飛び出すか上るかその一を擇ばねばならぬ絶對絶命に置かれたのでした。之の際氣の弱い男とお笑ひ下さるな、之れはその體驗のある人によつてはじめて肯定される問題です

◇人に見られても外聞が惡いので結局上りました、(中略)そして決して安くない遊興費の外ねだられた蓄麥代十錢のおつり四十錢は私の手には返されませんでした

◇その時の溝へ捨てた樣な白米約二斗の代金。それを得る爲寒風の一日を驅け廻つた自分である事に氣が付いた時四十にして惑つた自分の暗愚に涙の滲み出るのを覺えたそして失神狀態から我に還り利鎌の寒月に心怯え乍ら落人の樣な氣分で自分の玄關に彳んだのでした、我家乍ら閾の高つたのは無論です

(〇丁目YZ生)

モクチンホテルで立廻り
朝鮮忠淸北道

淸阿郡江內面雀天里二六四松本新太郎事沈民澤(二八)は十四日午後六時頃內郷村綴河原田木賃宿相馬屋事相馬郡金房村平寄一三一鎌田易之助(四二)方に一泊三十錢の契約で宿泊したが翌朝未明から出て行けと云ふので鎌田に貸した一圓六十錢を請求すると鎌倉は言を左右に託して支拂はずその上右顱項部中央に約二糎の裂傷外數所に全治三週間を要する傷を負はされたと十九日被害者から平署に訴へ出た

頑固にも振り切れぬ 月賦トンビの袖
殆ど連夜行はる
南町街上の悲劇?

『にいさん上んなよ』と第三期の鼻聲をつまらせ乍それが假令あんちやんでも兩秋をつく樣な年寄りでも誰れ彼れの差別容赦なく少くとも男と云はるる程のものには片つ端からモーションをかけるをしごとに面壁九年。難行苦行の張り店が大に風紀と云ふものを害するとあつて面接遮斷の塀囲ひに改められたので內氣な男達が之れから安心して天下の公道が步けると喜んだは束の間、今や南町の暗に咲く白粉の花は時節柄所謂象牙の塔ではない塀うちの店にすくだまつてゐたんでは到底飯にならぬと云ふ處から勇敢にも唆態の外へ進出して途行く人の袖を捉へては盛んに腐餌した肉の一片に憧れ寄る狼連を咬え込む事に百%の努力を拂ふ、而もこの街上の小せり合ひを當局知るや知らずや或は之の種の施設も最少限度にその必要を認め所謂寬嚴宜しきに適した粹な取り締りに出てゐる點もあるか知れぬが最近の節季間近に於いてその引つ張り加減が更に露骨さを增して來たので一部の眞面目な營業者迄一しよくたに兎角の難を浴びせられてゐる樣である。時なるかな最近入つた、別項の投書の如き一般の消息を最も雄辯に物語るものとして當局及び當業者にとり一顧の値なしとは云はれる內容が盛られてある

嫁の親戚と僞り
姑から現金詐欺

當時住所不定無職澤渡村下市萱運川一九川崎庄作(三五)は去月中旬頃好間村北好間三友田二七志賀ステ方に至り志賀の嫁カツ子(二八)がステと別居不在なのを奇貨としカツの親戚を裝ひ明日返濟するからと現金三圓を受取り立ち去つたあとで詐欺にかかつたものと解りステは十九日平署へ訴へ出た

百二十袋と 六十二圓餘
救貧成績良好

人事相談所石城共濟會委員花澤賢有氏が町役場後援の下に町內貧困者救濟の同情袋約五百枚を發布した旨既報の如くであるが一昨十七日より取り集めに着手し十七、十八の二日間に於いて百二十枚と最高三圓最低五錢合計六十二圓十二錢が集り引き續き取り纒め中であると

鰯入漁で賑ふ濱一帯

連日の鰯大漁にて忙殺せられて居る

平法曹忘年會 平町

辯護士協會では二十四日午後一時から裁判所構內詰所で總會を開催役員改選豫算決算を附議し了つて裁判所職員と合同忘年會を催すと

低利資金借入決定
漁組へ二萬圓低利

四倉町漁業組合資金借受け問題は既報經緯であるが昨十八日理事會を開き信用組合の保證の下に町産業振興の意味で二萬圓を中央金庫より借受が出來る事になつたと

赤井瓦

◇不景氣の藥が近來少し利いたせいか、平の藝妓も此頃は少し悧口になつて『結構よ、三本で』是非呼んで頂戴な』と言ふ樣なのがボフ〳〵現はれ出した、古語に曰く艱難汝を玉にすだとサ◇そうなりや時間前でも貰ひが利くようにならうしそれが人氣で賣れることは他の方面を見ても正に判然と解るぢやないか『ナァニた邪魔でなけりやお客樣のとこで遊ばして貰つてるのですよ』と、どこかの藝者は言つてる◇どうせ家へ歸つても火鉢の中から燒けた銅貨でもサガシてるのが落だもの、お座敷で美味いものを御馳走になつてる方が勝ちだよ、そんな氣のついてるお客はないつて、誰だつけワンタンの笛の音を聽くとヂットして居られないと言つたのはそうかお鯉お前だつたか。

○……○

明日の吉凶
舊十一月一日　新十二月十日暦

▲一白の人 和合はありても福徳には至つて縁の薄き日▲二黒の人 先見の利かぬ日新規の事には手を出す勿れ▲三碧の人 働き甲斐のあらはれ來る日午前中がもつとも吉なり▲四緑の人 空景氣のみ強くして割合に實收の少き日▲五黄の人 奧齒に物のせまりたる如き感じの生ずる日▲六白の人 表非幸福の如く見へて秩序亂れ勝なり注意▲七赤の人 社交上の事は勿論日常の小事も緊縮が肝要▲八白の人 調子に乘り過ぎて失敗を招き易し自重第一▲九紫の人 陣容を整へ自重して進む時は意外の効あり

辭令

荷路夫郵便局長 綠川秀夫
依願免本職
蛯田勝
荷路夫郵便局長を命ず

度衡違反檢擧 平町

南町四一菓子商小林松四郎(六九)は十九日度量衡違反として平署の取調べを受けた

吉田眼科病院
平町紺屋町

夜間診療
胃腸 梅毒
內科 十二指腸虫病 專門
淋病 皮膚病 婦人病 專門
內科部 外科部
松村胃腸性病科醫院
(平南町電話一〇七番)

新マツダ斯瓦入電球三割値下
十五ワット
二十五ワット 三十錢
四十ワット
六十ワット 三十五錢
百ワット 六十五錢
一個デモ御電話ガアレバ早速御屆ケイタシマス是非御用命ヲ願マス
特約店 大谷時計病院 電球部 電話十九番

學生外套特賣
酷寒・強雨ニモ耐ヘ生地
型・仕立・百パーセ の
黑ラシャ外套特價提供
中學用(極上)8圓50錢より
小學用(同)5圓50錢より
全部頭巾付
あかや洋服店
平二 電203

◎レコード破りの 石炭大廉賣!!!
(磐城炭礦二等炭)
正味十貫目一俵 金卅錢也
◈品ガ良ク『値ハ安ク』ヲモットートスル當店ハ此度超破格ノ格安石炭ヲ販賣開始致シマス
◈値ガ安クトモ品ハ惡クハアリマセン
◎磐城炭礦ノ處分的大堀出物デス品物ノクナラナイ中ニ御注文下サイ
◎配達ハ一俵ヨリ致シマス
御注文は ―電話二三七番―
平驛前 阿部石炭商店